

## まとめ ＜第一次報告に至る経過と今後の検証について＞

当委員会は、平成29年4月11日に設置され、第1回委員会での基本調査の確認から検証作業を開始した。その直後から、詳細で広範囲にわたる詳細な基本調査結果及び御遺族等の要望の内容等も踏まえ、高体連及び登山専門部の組織、春山安全登山講習会の計画や運営状況、引率教員の雪山経験や指導歴、事故発生当日の行動や判断の状況、雪崩事故発生時及びそれ以後の救助活動や保護者等への連絡などの緊急対応、高体連及び各学校の対応などについて、追加の資料を求め、それらを元に5月14日、15日の両日に現地調査及び延べ103名の関係者の聞き取りを行い、特に当日の各班の行動等について確認した。当委員会では、それらの結果を整理し、第2回、第3回の委員会で関係資料を基に報告し、委員間の情報共有を行うとともに、第一次報告書の作成に入った。

この検証作業の一環で、引率教員と生徒の8名が亡くなり、多くの生徒が負傷した那須温泉ファミリースキー場周辺の事故現場等を訪れ、献花・黙祷をさせていただいたが、霧の中から時折垣間見える一見穏やかで気高い那須岳の山容が、改めて今回の雪崩事故の発生がもたらした深い悲しみと自然の脅威を思い起こさせた。

我々検証委員会は、何ら権限が与えられているわけではないため、これまで善意の協力によって資料収集と聞き取りを行いながら、県教育委員会、高体連や引率教員、参加の各学校の関係者並びに地域の関係機関、団体、施設及び国立研究開発法人防災科学技術研究所等から真摯な御協力を頂き、検証作業を進めてきた。さらには、深い悲しみや困難の中にあるにもかかわらず、負傷された生徒と亡くなられた生徒・職員の御家族の方々にも、委員会への傍聴と検証作業への率直な御意見等を頂き、心から感謝している。

このように、多くの方々の御協力を得て、これまでの検証結果から、講習会の計画や実施内容、当日の各班の行動、事故発生時の状況及び救助の状況、その後の各学校の対応の状況等の概要を整理し、幾つかの問題点を洗い出すことができた。

今後は、まだつまびらかでない事柄について、追加の資料収集と聞き取りなどを進めるとともに、これまでの検証結果を分析・評価し、本件講習会実施に対する準備と企画・運営、支援体制や判断の適否、指導体制と指導者の資質、緊急時の通報・連絡体制、予見可能性と安全注意義務等などについて真摯に議論を行い、事故の発生原因や改善点を整理し、今後の類似事故の防止に役立つ提言を取りまとめ、平成29年9月末を目途に最終報告書を作成したいと考えている。

今後も、多くの方々の協力を得て、有意義な検証作業を進めたいと考えている。各位におかれては、より一層の御協力をお願いしたい。

平成29年3月27日那須雪崩事故検証委員会 委員長 戸田芳雄  
委 員 一 同